

2019年3月

歴史 — No. 18

けんぱくものしりシート

ぼ しん せん そう

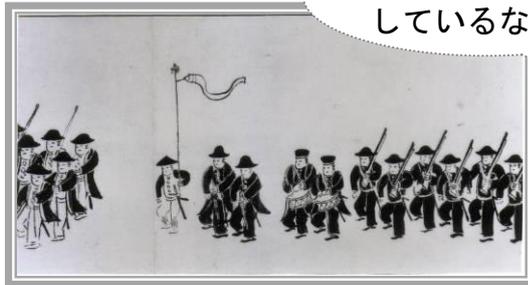
ぐん そう

戊辰戦争の軍装



これは江戸時代の終わり 1868 (慶応4) 年から 1869 (明治2) 年に起きた戊辰戦争の時、一閥藩の兵士が身につけていた軍装です。この軍装、上着にズボン…なんだか洋服みたいですね。この戦争で一閥藩の兵士たちは皆、洋式の軍装だったことが資料からわかっています。全軍に統一の洋式軍装を整えたのは日本でも初めてのことだったそうです。

わしとは違う格好をしているな…



『戊辰戦争行軍図巻』(個人蔵)

「戊辰戦争」って？



□いつ？ : 1868 (慶応4) 年 ~ 1869 (明治2) 年

□どこで？ : 「鳥羽・伏見の戦い」(京都府) ~ 「上野戦争」(東京都) ~

「会津戦争」(福島県) ~ 「秋田戦争」(秋田県) ~ 「函館戦争」(北海道)

※ () 内は現在の都道府県名

□誰と誰が？ : “新政府軍” と “旧幕府側”

□結果は？ : “新政府軍” が勝利。約260年続いた江戸幕府が滅び新しい明治時代へ。

この軍装についてくわしく紹介します。大きな特徴は、外国から伝わってきた舶来品や外国の技法で作られたものと、伝統的な日本の技法で作られたものが入り混じっていること（和洋折衷）。次第に西洋の文化を取り入れ近代化を目指していたこの時期だからこそ見られる興味深い特徴です。



【陣笠】 反古紙（使い古しの紙）を約1cmの厚さに貼り重ね、外側に黒漆、内側に赤漆がかけられています。正面には一関藩主の*馬印「一つ巴紋」が*金蒔絵で描かれています。

*馬印：大将の馬側に立てその居場所を明らかにしたもの。
*金蒔絵：漆が乾かないうちに金粉を蒔きつけたもの。



【吊剣ベルト】 鹿革に黒漆を塗った舶来品。牛革を染料で黒く染めています。



【弾薬盒】 弾入れ。舶来品。牛革を染料で黒く染めています。



【マンテル】 フランス式の外套（コートのようなもの）。生地はオランダ船によってもたらされた呉呂（ゴロフクレン）と呼ばれるもの。前開きでボタンが4つ。スタンドカラー（立襟）。ポケットつき。左右の胸に一つ巴紋、背中に家紋がぬい付けられています。



【草履】 洋式の靴はすでに日本に伝わっていましたが、草履をはいています。



【軍服上下】 上着とズボンの上下。裏地が付いています。形はフランス式ですが、ぬい方は和服を仕立てる技術を用いています。

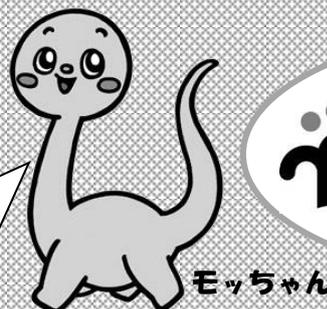


【銃と刀】 銃はエンフィールド銃という舶来品。弾の飛ぶ距離、破壊力とも優れ、最新式のものだったと言われています。同時に刀も持っています。

戊辰戦争から150年経ちました。この軍装から、当時の深い時代背景をつかみとることができますね。

参考 『一関藩の戊辰戦争』 一関市博物館 2008年 / 『岩手の明治維新』 岩手県立博物館 1989年 他

来月（4月）の
けんぱくものしりシートは
民俗18だよ！
おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。